

## 10 月度木曜例会 (2008/10/02)

今回のゲストスピーカーは Ernesto さん、キューバの方です。奥さんは日本女性、2 歳ちょっとのお嬢さんがいます。I I Nには今回で 3 度目の登場、先回はちょうど 1 年前 10 月 4 日、タイトルは“Reflections, Essays, Stories, and Treatises on how to Save the World from the Island of Cuba”でした。普通ならスピーカーのお国紹介、文化、慣習、伝統などがあるのですが 3 度目ともなるとその人の専門的な分野、考え方の中身など奥深い所に入り込みます。今回のタイトルは“Brief Introduction of the Art of Watercolor”でした。前もっての案内からこれなんなの？



何を予習して行ったらいいの？と戸惑いましたが彼は画家であることを思い出し、さもありなんと納得。現在の彼は東洋と西洋のテクニック、発想をミックスした水彩画に没頭しているようです。彼の作品を通じて彼をより理解して欲しいと言う思いが感じられました。

ところで絵画に疎いわれわれが絵画の話を通じて人を理解する、しかも英語で！結構ハードです。彼の本論に入る前に絵画の画法について予習しましょう。

### ● Tempera (also known as egg tempera)

テンペラは水性と油性の成分が混合した乳濁液を媒剤とする絵画技法。テンペラは混ぜ合わせるという意味のラテン語 Temperare を語源としている。乳化剤として鶏卵を用いる卵テンペラ、カゼインを使うカゼインテンペラなどの処方がある。西洋の絵画で広く行われてきた卵テンペラには、油彩画のような黄化・暗変を示さないという特徴があり、数百年前に制作された作品が今日でも鮮明な色彩を保っている。左はアンジェリコ フラ 受胎告知



### ● Pastel

Pastel is an art medium in the form of a stick, consisting of pure powdered pigment and a binder. The pigments used in pastels are the same as those used to produce all colored art media, including oil paints; the binder is of a neutral hue and low saturation.

The pastel medium was first mentioned by Leonardo da Vinci in 1495.



During the 18th century the medium became fashionable for portrait painting, used in a mixed technique with gouache. 大原美術館にあるミレーの『グレヴィルの断崖』を見ました？

- **Oil painting**

Oil painting is the process of painting with pigments that are bound with a medium of drying oil — especially in early modern Europe, linseed oil. Often an oil such as linseed was boiled with a resin such as pine resin or even frankincense;

- **watercolor**



watercolor painting is extremely old, dating perhaps to the cave paintings of paleolithic Europe, and has been used for manuscript illumination since at least Egyptian times but especially in the European Middle Ages, its continuous history as an art medium begins in the Renaissance. The German artist Albrecht Dürer (1471-1528) who painted several fine botanical, wildlife and landscape watercolors, is generally considered among the earliest exponents of the medium. An important school of watercolor painting in Germany was led by Hans Bol (1534-1593) as part of the Dürer Renaissance

- **Gouache or bodycolor**

Gouache or bodycolor (the term preferred by art historians) is a type of paint consisting of pigment suspended in water. Gouache differs from watercolor in that the particles are larger, the ratio of pigment to water is much higher, and an additional, inert, white pigment such as chalk is also present.



さてスピーチの内容ですが水彩画の歴史から始まり、水彩画とは、その用具とは、また水彩画と油絵の違い、東洋と西洋の絵画の違いなどについて彼の考え方も取り混ぜて熱く語ってくれました。絵画に疎い私たちも興味をもって聞くことができ、話の途中にふんだんにジェスチャーや擬音を使って盛り上げてくれ、誠実なお人柄と絵画に対する熱意は話のいたるところから伝わってきました。



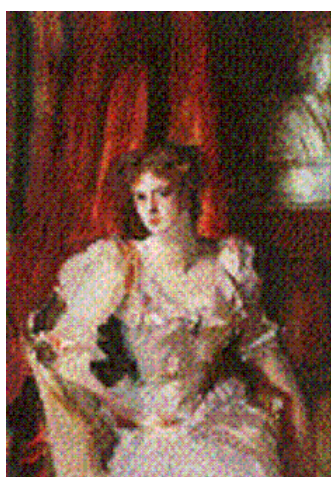
現代の水彩画法は 15 世紀以降画家が絶えず行ってきた手法で、絵の色合いを淡くしていくものに発展していきました。イタリアのレオナルドやドイツのデュレルやそのほかブリュゲルが始めた手法です。顔料を水で溶き絵の具にしますがこの技法は太古の壁画時代からあり絵画史上最古のもので油絵が出現するまで幅広く用いられました。これは卵黄などを混ぜた絵の具を使うテンペラ画法とは異なります。また水彩画とは反対に乾燥した色彩具で描くパステル画法とも異なります。紙に筆を使って、水で薄めた絵の具を塗りますが、絵の具は顔料と展色剤であるアカシヤの一種から得られるアラビヤガムから出来ています。普通水彩画というのは白や淡い色の紙に透明水彩で描かれた作品を言いますが、不透明水彩を使うグワッシュと言いものもあります。

By watercolor is meant transparent colors applied to the white or light-tone paper, part of which may be left in reserve. In this it differs from gouache or body-color, which is thicker and opaque, the colors being bound with glue, with an admixture of which pigment for lighter tones.

Watercolors are applied from brighter to darker, gouache in the contrary way, the darker under painting being gradually lightened. The two media may seem mutually exclusive, but in fact they are often used together, the watercolor being heightened with gouache.

The illuminations on the vellum pages of medieval manuscripts and the portrait miniatures painted on vellum at the Renaissance, and later on Ivory, are technically akin to watercolor and gouache, but stylistically they are distinct from them.

天然の顔料を水に溶かして描く方法は有史以前にありました。しかし初期のキリスト時代（約二千年前）に中国人によって画期的な紙の発明がなされました。また水彩画に使われる柔らかい獣毛でできた筆を発明し、その筆の改良をしていったのも中国人です。東洋の絵画は墨や淡い色を使って風景を水彩画にします。透明性を持たせた淡い色で背景を描き、はっきりとした色合いを避け、中心部にやすらぎ感を与えるような工夫がなされます。中国のものはわざと色を塗る範囲を狭め線が浮き出るようにし、空気の振動のような雰囲気を感じさせたりして多分に哲学的です。広大でパワフルです。他方、西洋の水彩画は単色か明るい色を使い、色使いや絵に関する本質的な先入観に囚われずに独自性を追求しようとしています。バイブルをベースにし、真実を追究するからでしょう。様々な色を使い、東洋のように線にこだわらず日光の輝きそのものを描いてみたり、多様性や示唆に富む無限の広がりの中で明るい色のしなやかさを表現しようとしています。西洋は instant, moment, immediate と表現出来るかもしれません。



ここで彼の作品を紹介してくれました。バルセロナの野原で日本女性（現在奥さん）のモデルと画家(本人)、そして犬たち、画家はキャンバスに向かい女性は傍にくつろぎ、地平線には明るい夕日、遠くにはカテドラル。東洋の

パワーと西洋のフィーリングが融合したような作品でした。あなたの一番好きな watercolor painter はだれですか？と言う質問には John Singer Sargent と答えていました。彼は油絵も沢山ありますが水彩画は約 2 千点残したそうです。その作品を添付します。Title は上から portrait of miss Wedgewood(watercolor), light and shadow(watercolor)そして lady Agnew of dochnaw(oil)

彼は 12 月の木曜例会に 4 度目の登場予定ですが、次回はどのようなタイトルなのでしょう。

(あまり難しいとホームページ update するのが大変ですが)

